

医学部全学共通科目調査レポート(第5報)

教育支援・国際交流推進機構教育センター准教授 きりやま さとし 桐山 聡

1. 調査の実施目的と概要

医学部医学科の教育課程は、平成19年度まで、基本的に1年次の鳥取地区における教養教育と、2年次以降の米子地区における専門教育から編成されていたが、平成20年度以降は、教養教育・専門教育とも1年次から一貫して米子地区で行われている。その目的は医学教育の一層の充実を図ることにあつたが、これによって鳥取大学の全学共通教育は教育内容・教育方法の点で鳥取地区・米子地区に二元化することになった。

こうした状況において本調査は、鳥取地区・米子地区における全学共通科目の教育水準に関して質的な一元性を保証するため、米子地区の全学共通科目の実態を把握し、必要に応じて改善を提言することを目的としている。

なおこれまでの調査概要、改善実績は以下の通りである。まず平成21年度から平成25年度まで毎年、医学科の学生を対象として、共通教育への満足度のアンケート調査及びヒヤリングを行った。平成26年度の調査では、上記5年間の調査において医学科の学生から改善を求められている授業科目について、前・後期各1回、「2. 調査方法」に記す3種類の調査を実施し、調査結果を踏まえて鳥取地区からの教員派遣やクラス規模の適正化を提言した。平成27年度からは、調査対象を医学部全学科に広げ、同様の調査、及び提言を実施している。平成28年度後期の調査から、「2. 調査方法(2)」の自由記述式アンケートのフォーマットを改善し、授業内容の充実度など4～5点について選択回答方式を追加採用した。平成29年度後期の調査から、自由記述式アンケートの選択回答方式の設問に「授業を開講している意義について」の理解度を問う設問を追加している。

令和元年度前期は、アンケート設問の全面的な見直しを行い、鳥取キャンパスにおける英語教育との比較を行うために保健学科・生命科学科の学生向けの設問を増やして調査を行った。また、アンケート調査の範囲を第二外国語、基幹科目(自然分野)に広げた。

本レポートでは、科目名や授業担当教員名は伏せたうえで、平成30年度後期及び令和元年度前期の調査について記す。

2. 調査方法

過去に実施した調査を踏まえ、次の調査手順とした。

(1) 教育センター教員による授業参観

教育センター教員が教養科目及び英語科目が開港される月曜日、火曜日、金曜日(後期のみ)に授業を参観した。同時に実施される 2 クラス以上の授業については途中で講義室を移動した。さらに、いずれかの日の授業後に学生に対するヒヤリング調査(学生ヒヤリング)を実施した。

(2) 授業の受講生に対するアンケート調査

調査対象である授業科目の担当教員の了解を得て、履修学生に A5 サイズの簡易アンケート用紙を配布し、当該授業について 4~5 問の選択回答式、及び自由記述式アンケート(感想)を実施した。アンケート用紙は授業直後に回収した。

(3) 調査対象である授業科目の受講生数人に対するヒヤリング調査

学生ヒヤリングは、英語科目を含む全学共通科目全般について、放課後(5 時限目)に行なった。ヒヤリング出席学生については、各授業クラスにつき受講生 2 名程度の選出を医学部学務課へ依頼した。

<調査担当教員>

教育センター共通教育開発部門 桐山准教授(責任者)

教育センター外国語部門 小林准教授、滝波助教(令和元年度前期)

3. 調査結果

授業参観における所見(参観できた科目のみ記述)、並びに学生ヒヤリングの結果をまとめた。また、アンケート集計結果の一覧は末尾の別表に示した。

3. 1 平成 30 年度後期の調査結果

3. 1. 1 授業参観における所見

(1) 科目 A (教員 A)

講義室の収容人数いっぱいの学生数だった。最初にテキストを持っていない学生の呼び出しと再配布を行った。授業が始まってからも学生の私語はしばらく収まらなかった。教室最後列では授業に関係ない卓球動画を PC で編集している学生、テキストを机上にも出さない学生、スマートフォンで遊んでいる学生、医学の内職をしている学生、寝ている学生などが多数見られた。教員の解説は人物相関図を坂書するなどわかりやすく声も聞き取りやすかった。

(2) 科目 B (教員 B)

ソプラノ、アルトなどパートごとに 4 つの班に分けて合唱演習が行われた。合唱の知識が

ある学生が他の学生に発声方法を教えるなど総じて授業への積極的な態度が認められた。バスパートの学生たちだけは恥ずかしかったのか声が小さかった。教員が各班を巡回し、歌いかたについて自ら実演しながら指導していた。

(3) 科目 C (教員 C)

アルコールの危険性についてテキストを読み 2、3 人でのグループワークが行われた。教員が机間巡回して私語に対する注意を与えていたが、教員の目の届かない机では私語が散見された。内職をする学生はいなかった。教員の説明はわかりやすかったが、演習時間はやや長く感じられた。

(4) 科目 C (教員 D)

多くの学生がペアで着席しているが、教員が座席をどのように管理しているかはわからなかった。授業の流れは、先週のサマリーライティングの返却とその課題に関するフィードバックから始まり、人体の筋肉の名前が書いてあるプリントを配布、用語の説明をした後、ペアでどの筋肉が体のどの部分にあるのかについて質問し答えさせていた。重要な単語は板書で示され、医療単語に関する教員の説明はわかりやすかった。語彙活動のみに約 45 分使っており個人的には少し長い印象を受けた。内職をしている学生はいなかったが、教員に断りなくいったん教室を抜け出す学生が 2 人ほどいた。

(5) 科目 C (教員 E)

砂糖の過剰摂取による健康上のリスクを取り上げていた。教員が様々なリスク（糖尿病、高血圧、肥満、卒中、アルツハイマー病）等について説明していた。学生にリスクを回避させるための方策などを発言させていたが、全体的な印象は、workshop スタイルというより lecture スタイルに近い。教室内において、教員と学生が話す割合をどの程度にするべきか難しい問題だが、強いて言えばもう少し学生の発話を引き出し、学生のアウトプットに焦点を当てるタスクを設定した方が良い。

(6) 科目 G (教員 S)

学生はペアで着席していた。学生の発言はマイクを座席順に回すことにより行われた。敷地内の道案内をテーマとする一般的なオーラルコミュニケーションを行っていた。1 度のみ参観なのではっきりとは言えないが、内容的には湖山キャンパスでの英語の授業の内容と若干重複していると思った。学生の発言に対して記録を付けたり、それ自体を評価している訳ではないようなので、participation などどのように管理されているのか興味を持った。

(7) 科目 F (教員 E)

テキスト内の単文のニュアンスを 0~100%の程度を表す単語と対応づける演習をペアワークで行っていた。演習を解き終わった女子ペア数組が日本語でけたたましく談笑していた。教員はペアワークの時間を計っていたがやや長いと思われた。その後、教員による詳細な解説があった。教員の話し方は聞き取りやすかった。

(8) 科目 F (教員 F)

ウォーミングアップとして学生たちを起立させ、例えばどのような festival や special day が好きかなどをペア同士英語で話させていた。引き続きテキスト内のウォーミングアップの質問を使ってペアで会話させていた。その後、教員から学生への質疑応答が行われた。干支についての質疑応答では複数の学生が挙手し順番に当てられ回答していた。テキストは医療英語ではなく、一般英語のテキストを使用しており、オーラルコミュニケーションに焦点を当てた授業形態だった。質疑応答および教員の説明中の私語はなく、また内職をしている学生はいなかった。

(9) 科目 J2 (教員 J)

冒頭で授業の狙いと進め方について説明があった。前回授業の振り返りとして学生からのコメントが映写され講評が行われた。次に、本題である本授業回の目標が改めて示された。「過去の自分と現在の自分」の同一性について学生自身に考えさせる演習があった。

分厚い医学参考書を机の上で広げて内職をしている学生数人、メモも取らずに漫然と聞いている学生数人が目についた。

教員の声は聞き取りやすかったが、やや早口だった。

(10) 科目 I (教員 I)

大部分の学生は、階段教室の後方から着座していた。分厚い医学参考書を机の上に広げて内職している学生が全体の半数程度いた。また、タブレット PCなどで授業とは無関係の画像の視聴や音楽を聴いている学生、堂々と寝ている学生も数人いた。

教員の解説は板書を交えた丁寧なものだったが、質問された学生が言い淀みまだ回答していないにもかかわらず教員自身が正解を口にするなど淡々とした授業進行だった。

3. 1. 2 学生へのヒヤリングにおける主な意見

《医学科 1 年生》

(1) 科目 A について

- a. 歴史が得意でなかったが、難しい話でもなんとか理解できている。
- b. 歴史が好きなので受講している。

c. 資料が豊富で充実していたが、一方で読み返す際の負担が大きい。

(2) 科目 B について

- a. オペラ鑑賞のみの感想しか言えないが、オペラを見る機会がなかったのでこのような講義はよかった。
- b. オペラ鑑賞後のレポートのテーマが抽象的なので、書きやすいテーマにしてほしい。

(3) 科目 J2 について

- a. 難しいと思っていたが丁寧な解説なので分かりやすい
- b. 身の回りのことを深く考えるために受講している。
- c. 学生の考えの紹介にとどまらず教員の意見を聞きたい。

(4) 教員 E 教員による英語の授業について

- a. 可もなく不可もない。
- b. 授業についていけている人もいれば、置いていかれる人もいる。

(5) 教員 F 教員による英語の授業について

- a. 英語が聞きやすい。内容が理解しやすく、授業が受けやすい。
- b. 全編英語授業を目指しているがペアを作るときは日本語を使うことがある。
- c. 外国に行ったときに実際に使える英語を教えてほしい。

(6) 教員 D 教員による英語の授業について

- a. 臓器、骨、筋肉の名前(英語)などは解剖実習などで役に立つ。
- b. 病気に対する対策については知識がないので学生側がおざなりになる。
- c. むしろ基本的な英単語を中心にやってほしい。

(7) 教員 C 教員による英語の授業について

- a. テキストを使った学習だけでなく、映画も見せてくれるので教養を深めるのに役に立っている。

《生命科学科 2 年生》

2 年の前期と後期では授業による負荷に大きな差があり、後期から大変になるので平準化してほしい。

3. 1. 3 まとめ

- (1) 自由記述式アンケートの選択回答方式の設問「授業を開講している意義について」に対する回答を集計した結果、13科目中5科目において開講の意義を理解していない学生が存在した。
- (2) 学生ヒヤリングの結果から、医学科の学生の一部は、専門科目の試験対策などに大きな負担を感じていることがわかった。

3. 2 令和元年度前期の調査結果

3. 2. 1 授業参観における所見

(1) 科目 O (教員 O)

今回から3日間のコミュニケーション・ワークショップ（グループワーク）が始まった。教員によれば、今回の授業以前にも毎回グループワークが行われているとのこと。

ワークショップのテーマとして「120%の満足度を得るための病院の創造」が与えられた。まず出席者14人を5～6人1組のグループが作られ、机もグループワークしやすい配置に変えられた。10円効果をテーマにした予備演習が行われた後、本番の手順の説枚があった。まずグループで個人の意見を出しあって、お互いにそれを否定せずにアイデアを膨らませ、グループとして3つの案をまとめて発表するという手順が示された。

(2) 科目 N (教員 N)

鳥取キャンパスとの間で遠隔TV会議形式の授業が行われた。出席者は13人だった。教員の背後に白板が置かれ図形や文字が書かれていたが米子キャンパスに設置されたモニタのサイズが小さいためか、文字が識別できなかった。

教員の話し方はやや早口だったが学生はついていけているようだった。文学表現の根拠となる時代背景やイギリスの生活習慣などの知識含めて詳細な解説がされていた。教員からはテキストの一文章の後に学生に対して名指しで質問がされており、学生も集中しているように見えた。ただ、回答のためにTV会議用の机上マイクを回答者間で手渡しにて使用していたのでやや不便そうに見えた。

(3) 科目 M (教員 M)

主に鳥根県の遺跡や文化遺産についてスライドソフトを使った解説がなされた。授業は学生への質問はなく、数多くのトピックスを映写した写真を使って淡々と進められた。1トピックあたりに費やす時間は1～2分程度、且つ早口であった。トピックス間の関連性が見えなかったため、解説内容はほとんど記憶に残らなかった。

出席者数は60人以上で、講義室の収容人数ギリギリに見えた。空調は効いておらず蒸し

暑い環境だった。

(4) 科目 P (教員 D)

授業は基本的に英語で行われた。学生は整然とペアで座っているため、座席表のようなものが使用されていると思われる。

筋肉の故障の事例について、教員から学生に対して質問がなされた。1 事例あたりに 1 人学生が答え、教員が白板にイディオムを書きながら補足的に解説する形式で授業が進められた。質疑応答は授業参観中続いた。双方向の授業がうまく機能しているように見えた。授業のまとめとしてあるトピックに関して agree か disagree かでグループディスカッションさせていた。自発的にグループごとにディスカッションの内容を発表させていた。

教員の声が聞き取りやすかったが、質問された学生の声がくぐもっており講義室の後方ではよく聞こえなかった。講義室の時計が止まっていた。

(5) 科目 P (教員 C)

テキストに沿って解説が行われていた。テキスト内の演習問題に向けてペアワークの指示があった。ペアワークは演習問題を解く時間も含めて 15 分間程度続き、ペアワーク中は日本語が許容されているように見えた。

ペアワーク後に 5 分間程度解説があり、次にリスニング演習が始まった。教員が文章を読み上げ、学生が演習問題中の空欄を埋める形式だった。

教員の声は聞き取りやすく適度の早さであったが、ペアワークについては、学生に余裕が見られたので、少し長いように思われた。

(6) 科目 S (教員 S)

授業開始 5 分前には白板に学生の着座位置が映写され、学生のほぼ全員が既に着席していた。教員から学生一人一人に対して一言評価を付したうえで 10 分間程度かけてレポートが返却された。その後、出欠確認があった。

レポートの内容(「臨席の学生の週末の出来事について」)に対するフォローアップのための質疑応答タイムが設けられ、教員から回答する学生が 3 人指名された。

次にテキストに沿って、「痛みの軽減」をテーマに授業が進められた。学生への質問は頻繁に行われており、双方向性の高い授業に思われた。教員の話し方は聞き取りやすかった。

ヒヤリングではテープ音声流され、テキスト中の文章の空欄を埋める演習が行われ、学生を指名して質疑応答が行われた。

(7) 科目 E (教員 E)

テキストの内容に関する 4 人 1 組のグループワークが始まり、グループ内では日本語でデ

ィスカッションが 10 分間程度行われた。その後、教員から全出席者に対して質問があったが、フレーズを伴う回答には積極的に手を上げる学生はいなかった。

教員の話し方はゆっくりしており意味をとることは容易だったが、話が長い時にはやや早口且つ声こもって聞こえた。学生 2 人が教卓付近に出てきてテキストの会話文を読み上げた。

(8) 科目 E (教員 F)

座席表のようなものが使用されているようで、学生はペアで座っていた。“This is Japan.” (マクミラン) という教科書が使われており、授業は教科書に基づき進められている。パワーポイントなどのスライドは用いていなかった。終始、学生の自発的な発表が見られる、雰囲気の良い授業だった。学生の自発的な発表は参加点などとして評点に加えられていた。

授業の流れは、主にペアワークでウォーミングアップのスピーキング、語彙チェックリスニング (七夕とお盆についての会話)、リスニングの内容理解問題、音読 (七夕とお盆についての会話)、ビンゴゲームが行われた。

(9) 科目 S (教員 E)

ウォーミングアップのディスカッションから教科書の読み物をグループで読んで、重要な 5 つの fact を挙げさせていた。問題を教員が読んで学生が全員で答えるスタイルだった。

テキストに沿って 6 人 1 組でグループワークが行われた。グループワークの結果を坂書するグループが 3 組募られ、グループワーク開始から坂書が終わるまで 20 分程度を要した。その間、他の出席者に対する教員からの指示は特になかった。

その後、坂書した学生に対して質疑応答の時間がとられたが、学生が回答するまで教員が待つ時間が長いように感じた。総じて、質疑応答中における他の学生に対するケアが不足しているという印象を受けた。また、どのように個人の参加点などを評点に加えているのか(あるいは加えていないのか) よくわからなかった。

3. 2. 2 学生へのヒヤリングにおける主な意見

《医学科 1 年生》

- (1) 教員 C クラスは、教員の日本語が多い。他のクラスの話の話を聞いているとちゃんと英語を勉強したい人には物足りないかなと思った。
- (2) 教員 F クラスには、特に不満はない。アクティブラーニングをしており、クイズ形式のグループワークがためになり楽しい。
- (3) 教員 E は、学生にちゃんと英語で話して欲しいらしい。聴衆参加型のプレゼンテーション (グループワーク) にしようとしている。教員が熱く語る時には高校までの英語とは

異なる話し方になって、学生の大部分は追いつけずに呆然としているように見える。

《医学科 2 年生》

- (1) 教員 C は、1 年生のころより簡単になった。
- (2) 教員 D は、毎回小テストがある。新カリキュラム下では小テストが負担に感じることがある。授業や小テストの内容自体は医療関係なので役に立っている。
- (3) 教員 E クラスは、1 年生の授業と比較すると難易度は上がった。医療単語も増えた。ディスカッションと長文読解の時間のバランスが良いと思う。
- (4) 科目 N は、内容的は楽しい。予習の段階で内容が高度なので分からないが、授業の進度が早いと思うことがある。最近はグループワークを取り入れて学生同士で理解を助けることになっている。
- (5) 科目 M は、内容は面白い。しかし、美術館に行く回があり、いったん講義室に集まってから美術館に行くが、現地集合のほうが時間を有効に使えるのではないか。30 分くらいで美術館を回った。
- (6) 科目 O については、グループワークが多かったが内容的に関心がなかった。病院経営のことと期待していた。
- (7) 履修のシステムに問題があり、自動抽選の結果、何も教養科目をとれなかった人がいた。科目 O や科目 M の履修人数を増やしたらいいのではないか。

《生命科学科 2 年生》

- (1) 教員 E クラスでは、いつも発表している人が固定されており発表やディスカッションに積極的に参加している学生には加点されている。意識の低い学生がいて加点されず教員に心配されている。
- (2) 教員 C の科目 U はレクチャースタイルなので、グループワークを増やして欲しい。教員が全部授業してしまうとモチベーションの低い学生が出てくるから

《検査学専攻 2 年生》

教員 F クラスは、ペアワークも発表も多く、皆が平等に手を上げて参加している。内容がやや簡単を感じる。鳥取キャンパスの読解の授業の方が難しかった。

《看護学専攻 2 年生》

- (1) 教員 D クラスでは、たまに教員の声が聞こえないのでマイク使って欲しい。鳥取キャンパスの授業と比べると簡単を感じる。テキストの長文も読みやすい。
- (2) 教員 S の授業は、鳥取キャンパスの授業よりも難しくなった。医学用語が増えた。同じ看護学専攻でも教員 D クラスと進め方が違うので同じようにできないだろうか。

本調査における小林准教授のコメント

英語科目について、学生側から同じ学年の同じ学科の学生が異なる内容を学んでいるのはおかしいという指摘がある。この不満はもっともと思われる。

それぞれのコースにおいて、コースのデザインやどのような到達目標を設定するのかを考え、それに基づきテキストや教授法のスタイルなどを議論し、統一感を持たせる必要を強く感じた。教員 C が中心に取り組むべきことかと思う。

3. 2. 3 まとめ

アンケートの選択式回答結果から、基幹科目（自然分野）の各科目に対して、受講生がやや不満を持っていることがわかった。

4. 今後の予定

令和元年後期以降にも継続的に同様の調査を行ない、調査結果に基づき全学共通科目における教育の質の改善提案を行っていく。

別表1 アンケート集計結果の一覧表(平成30年度後期分)

1. 授業に対する総合的な満足度について				
科目名	a. 満足している	b. どちらとも言えない	c. 満足していない	回答者数
科目C 教員C	100%	0%	0%	30
科目C 教員D	90%	10%	0%	31
科目C 教員E	80%	20%	0%	25
科目G 教員S	96%	4%	0%	24
科目G 教員D	53%	47%	0%	30
科目F 教員C	73%	24%	3%	33
科目F 教員E	91%	9%	0%	33
科目F 教員F	94%	6%	0%	35
科目A 教員A	62%	36%	1%	80
科目B 教員B	61%	35%	3%	31
科目I 教員I	76%	24%	0%	34
科目J2 教員J	95%	2%	2%	44
科目H 教員H	100%	0%	0%	43

2. 授業の難易度について				
科目名	a. 十分理解できている	b. なんとか理解できている	c. 理解できていない	回答者数
科目C 教員C	73%	27%	0%	30
科目C 教員D	87%	13%	0%	31
科目C 教員E	40%	60%	0%	25
科目G 教員S	75%	25%	0%	24
科目G 教員D	60%	40%	0%	30
科目F 教員C	42%	52%	6%	33
科目F 教員E	42%	58%	0%	33
科目F 教員F	94%	6%	0%	35
科目A 教員A	48%	48%	5%	80
科目B 教員B	45%	52%	3%	31
科目I 教員I	53%	47%	0%	34
科目J2 教員J	59%	41%	0%	44
科目H 教員H	72%	28%	0%	43

3. 授業の楽しさ・親しみやすさについて				
科目名	a. 楽しい・親しみやすい	b. どちらともいえない	c. 楽しくない・親しみづらい	回答者数
科目C 教員C	97%	3%	0%	30
科目C 教員D	87%	10%	3%	31
科目C 教員E	76%	20%	4%	25
科目G 教員S	92%	8%	0%	24
科目G 教員D	37%	47%	17%	30
科目F 教員C	76%	21%	3%	33
科目F 教員E	88%	12%	0%	33
科目F 教員F	97%	3%	0%	35
科目A 教員A	51%	41%	8%	80
科目B 教員B	53%	40%	7%	30
科目I 教員I	68%	32%	0%	34
科目J2 教員J	93%	7%	0%	44
科目H 教員H	98%	2%	0%	43

4. 授業を開講している意義について				
科目名	a. 十分理解できている	b. なんとか理解できている	c. 理解できていない	回答者数
科目C 教員C	87%	13%	0%	30
科目C 教員D	84%	16%	0%	31
科目C 教員E	60%	40%	0%	25
科目G 教員S	83%	12%	4%	24
科目G 教員D	43%	43%	13%	30
科目F 教員C	58%	42%	0%	33
科目F 教員E	73%	27%	0%	33
科目F 教員F	91%	9%	0%	35
科目A 教員A	42%	41%	16%	80
科目B 教員B	29%	58%	13%	31
科目I 教員I	62%	38%	0%	34
科目J2 教員J	64%	32%	5%	44
科目H 教員H	77%	23%	0%	43

備考：表中の小数は、選択肢 a、b、c を選んだ人数の回答者数に占める割合を表す。

別表2 アンケート集計結果の一覧表(令和元度前期分、医学科)

設問1. 授業の内容・水準は、充実していますか？ (%)					
科目名	a.その通りだ	b.どちらかというその通りだ	c.どちらかというそうではない	d.そうではない	回答者数(人)
科目P_教員C	93	7	0	0	28
科目P_教員D	54	43	3	0	35
科目E_教員F	82	18	0	0	34
科目E_教員E	57	40	3	0	35
科目S_教員E	77	23	0	0	30
科目V2_教員W	91	0	9	0	11
科目V3_教員X	78	19	3	0	58
科目V_教員V	55	45	0	0	29
科目O_教員O	50	39	11	0	36
科目N_教員N	75	25	0	0	8
科目M_教員M	58	42	0	0	52
科目T2_教員Y	24	40	22	13	99
科目T_教員T	27	48	19	6	85
科目T3_教員Z	38	38	22	1	94
科目T4_教員T4	53	40	6	1	96

設問2. 教員の説明・手法は、分かりやすいですか？ (%)					
科目名	a.その通りだ	b.どちらかというその通りだ	c.どちらかというそうではない	d.そうではない	回答者数(人)
科目P_教員C	89	11	0	0	28
科目P_教員D	54	46	0	0	35
科目E_教員F	82	18	0	0	34
科目E_教員E	57	37	6	0	35
科目S_教員E	77	17	7	0	30
科目V2_教員W	91	0	9	0	11
科目V3_教員X	74	22	3	0	58
科目V_教員V	59	41	0	0	29
科目O_教員O	64	19	17	0	36
科目N_教員N	62	38	0	0	8
科目M_教員M	63	37	0	0	52
科目T2_教員Y	18	30	28	23	99
科目T_教員T	25	35	28	12	85
科目T3_教員Z	36	32	24	7	94
科目T4_教員T4	51	39	9	1	96

設問3. あなたはこの授業に興味に取り組んでいますか？ (%)					
科目名	a.その通りだ	b.どちらかというその通りだ	c.どちらかというそうではない	d.そうではない	回答者数(人)
科目P_教員C	82	18	0	0	28
科目P_教員D	43	49	9	0	35
科目E_教員F	74	26	0	0	34
科目E_教員E	63	34	3	0	35
科目S_教員E	70	23	7	0	30
科目V2_教員W	73	18	9	0	11
科目V3_教員X	76	22	2	0	58
科目V_教員V	62	34	3	0	29
科目O_教員O	47	39	14	0	36
科目N_教員N	38	62	0	0	8
科目M_教員M	38	42	19	0	52
科目T2_教員Y	36	32	25	6	99
科目T_教員T	21	51	22	6	85
科目T3_教員Z	43	34	18	5	94
科目T4_教員T4	52	36	8	3	96

設問4. あなたはこの授業に全体として満足していますか？ (%)					
科目名	a.その通りだ	b.どちらかというその通りだ	c.どちらかというそうではない	d.そうではない	回答者数(人)
科目P_教員C	89	11	0	0	28
科目P_教員D	49	49	3	0	35
科目E_教員F	76	24	0	0	34
科目E_教員E	60	37	3	0	35
科目S_教員E	70	27	3	0	30
科目V2_教員W	91	0	9	0	11
科目V3_教員X	71	26	3	0	58
科目V_教員V	62	34	3	0	29
科目O_教員O	58	25	17	0	36
科目N_教員N	50	50	0	0	8
科目M_教員M	52	46	2	0	52
科目T2_教員Y	19	33	32	15	99
科目T_教員T	21	41	26	12	85
科目T3_教員Z	36	30	30	4	94
科目T4_教員T4	46	40	14	1	96

備考：表中の小数は、選択肢 a、b、c、d を選んだ人数の回答者数に占める割合を表す。

別表2 アンケート集計結果の一覧表(令和元年度前期分、保健学科および生命科学科)

設問1. 授業の内容・水準は、充実していますか？ (%)					
科目名	a. その通りだ	b. どちらかというとその通りだ	c. どちらかというところではない	d. そうではない	回答者数(人)
科目Q_教員E	56	44	0	0	32
科目S_教員D	34	57	9	0	35
科目S_教員S	60	40	0	0	35
科目S_教員F	68	27	5	0	41

設問2. 教員の説明・手法は、分かりやすいですか？ (%)					
科目名	a. その通りだ	b. どちらかというとその通りだ	c. どちらかというところではない	d. そうではない	回答者数(人)
科目Q_教員E	62	38	0	0	32
科目S_教員D	34	49	17	0	35
科目S_教員S	57	37	6	0	35
科目S_教員F	83	17	0	0	41

設問3. 鳥取地区で受講した関連科目とのつながりはスムーズですか？ (%)					
科目名	a. その通りだ	b. どちらかというとその通りだ	c. どちらかというところではない	d. そうではない	回答者数(人)
科目Q_教員E	53	41	3	3	32
科目S_教員D	17	63	20	0	35
科目S_教員S	31	49	14	6	35
科目S_教員F	39	39	20	2	41

設問4. あなたはこの授業に真剣に取り組んでいますか？ (%)					
科目名	a. その通りだ	b. どちらかというとその通りだ	c. どちらかというところではない	d. そうではない	回答者数(人)
科目Q_教員E	56	44	0	0	32
科目S_教員D	20	69	11	0	35
科目S_教員S	34	63	3	0	35
科目S_教員F	63	34	2	0	41

設問5. あなたはこの授業に全体として満足していますか？ (%)					
科目名	a. その通りだ	b. どちらかというとその通りだ	c. どちらかというところではない	d. そうではない	回答者数(人)
科目Q_教員E	56	44	0	0	32
科目S_教員D	23	63	14	0	35
科目S_教員S	51	43	6	0	35
科目S_教員F	76	22	2	0	41

備考：表中の小数は、選択肢 a、b、c、d を選んだ人数の回答者数に占める割合を表す。